第2回調査検討部会の論点
～モニタリングの方法～

資料1

番号	第2回調査検討部会(4月10日)での議論	対応の方向性
1	土地利用主体の行動に影響を与える要因はなにか、なぜそのような土地利用になっているか、どんな問題が発生しているか、それをどうやって解決していくか、という流れで説明(整理)してほしい。	現状と課題から解決策のモニタリング指標までの流れについては、今回の評価シートの中で整理した。
2	土地利用主体に影響を及ぼすような、経済性の観点(税金等)が入っているとよい。	国土利用計画に沿った周辺の指標の範囲で経済的な指標(例:農業産出額、生産農業所得、製造品出荷額等)について取り入れた。
3	誰が、何をモニターをするのかといったような位置づけを明確にしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的なデータを使用した各種指標のモニタリング 県が指標を提示し、県民や審議会の意見を伺っていく。 ・県民参加型のモニタリング手法 今後の検討課題としたい。
4	県の特色に向かって、重点的にモニターするべきものがあるといい。いたずらに指標や統計データが多いと、結果がわかりにくくなる可能性がある。	ゾーンごとのモニタリングの中で重点的に行うことも検討していきたい。指標等の整理については、ご指摘の点も踏まえて整理した。
5	森林については、個別課題がネガティブな表現になっている。揃えたほうが良い。(問題提起型に書くか、推進型に書くか)	評価シートの構成を再検討する中で、こうした点についても見直しを行った。
6	課題が発生する原因や背景をシートの中に、短く文章で書いてはどうか。	今回、評価シートの中に記述した。
7	現状のモニタリング指標はどこに入るのか。(個別課題がどれだけ深刻になったか等)	今回のデータシートの中に、過去からの経年変化という形で現状のモニタリング指標も加えている。
8	評価シートを埋めていくにあたって、市町村にアンケートを行ってもよいのではないか。	5年後に予定している評価の際には、県民や市町村へのアンケート調査も予定しているところである。隔年に実施するモニタリングの際にどこまで実施するかは引き続き検討したい。
9	航空写真を使ったものとか、ミクロな場所をピックアップして調査するとかといった指標は次回示されるのか。	ミクロ的なモニタリングについては、ゾーンごとのモニタリングの中でどういう手法が可能であり、かつ効果的なのか研究していきたい。